Smart at Al for kintone Powered by GPT

利用マニュアル



改訂履歴

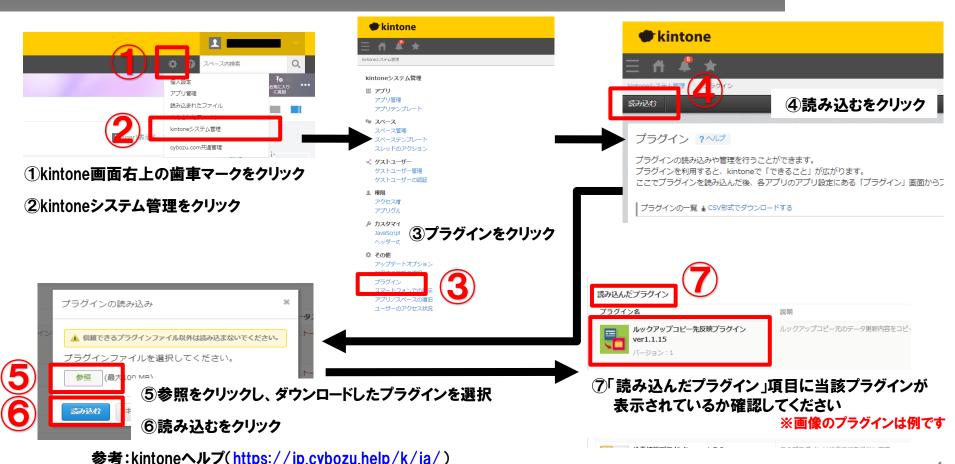
以下、本マニュアルの改訂履歴です。

版数	作成/更新日	改訂要旨
初版	2023.10.26	新規作成
第2版	2023.10.26	トライアル利用の追加
第3版	2023.12.22	注意事項にゲストスペース対応を追記等
第4版	2023.12.26	注意事項の追加(IPアドレス制限)
第5版	2024.01.26	利用状況、HTML表示、設定書出・設定読込の追記
第6版	2024.02.05	プロンプトに添付ファイルを挿入する場合の追記。モバイル対応。 HTML表示について説明を記載。
第7版	2024.02.27	kintoneWebhookを利用した生成について誤表記を訂正 プロンプトチェーンとパラメータ値詳細設定対応について追記
第8版	2024.03.26	Web取得対応の追記
第9版	2024.04.05	Anrhropic対応の追記と注意事項の追加(HTML表示時のiframeタグ)
第10版	2024.05.28	一覧連続実行とバッチ実行ログ機能の追記
第11版	2024.06.27	Gemini対応、画像ファイル読込、プロンプトごとにモデル設定を可能に する対応、コンテンツストアURL追加の追記
第12版	2024.07.31	生成API設定の変更

改訂履歴

版数	作成/更新日	改訂要旨
第13版	2024.08.20	検索拡張生成(RAG)の機能追加。Smart at APIキーの記載変更。
第14版	2024.09.27	レコード生成機能の追加。
第15版	2024.10.10	「レコードを追加」に関するの記載内容の変更。
第16版	2024.10.28	エージェント実行機能の追加。
第17版	2024.11.26	エージェント実行の一覧表示を追加。ツールチップの追加による画像の 差し替え。
第18版	2024.12.23	添付ファイルの複数対応、添付ファイルの種類を追加。
第19版	2025.01.27	マークダウン、推奨モデル表示、添付ファイルの種類を追加
第20版	2025.02.25	AnthropicのPDF対応に伴い、添付ファイルの種類を修正
第21版	2025.03.04	注意事項に「moconavi」のセキュアブラウザ「mocochro(モコクロ)」対応を追記
第22版	2025.03.24	OpenAIの添付ファイル対応(追加)
第23版	2025.04.22	プロンプト条件設定機能、結果保存先フィールドの種類を追加。
第24版	2025.05.27	長文生成機能、実行条件に指定できるフィールドの追加。
第25版	2025.06.27	Web検索の追加、プロンプトプレビューの追加、文字フィールドの変更

kintoneへのインストール手順



| kintone ヘルプ > 管理者ヘルプ > プラグインの管理 > プラグインを追加/削除する(システム管理)

アプリへの設定手順



設定画面



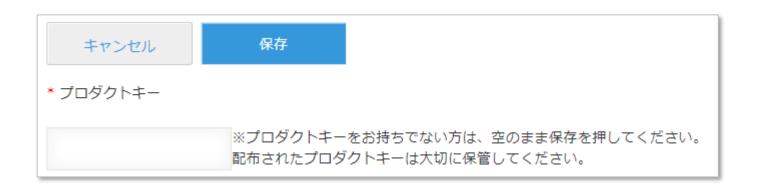
設定項目

- プロダクトキー
- 生成API設定
- 利用環境設定
- ログ機能 (有償版機能)
- バッチ実行ログ機能
- 機密フィルタ (有償版機能)
- プロンプト設定
- プロンプト設定-高度な設定

※**赤枠**で囲まれた部分は必須設定項目となります。

プロダクトキー設定方法

プロダクトキーは保存時に自動生成されます。 プラグインを複数アプリに適用する場合、生成されたプロダクトキーをコピーし貼り付けて保存してください。



※初回設定時にプロダクトキーが表示されますので、忘れないよう保管してください。プロダクトキーがわからなくなってしまった場合は、サポートへお問い合わせいただきドメインをお知らせください。

生成API設定と利用環境設定

生成環境は「OpenAI」「Anthropic」「Gemini」「Smart at (旧Azure)」の4つを設定することができます。

各環境の違いは下記の通りです。

	OpenAl Anthropic Gemini	Smart at (IE Azure)
利用	無償版	トライアル、有償 版
API+-	お客様でご用意	弊社で発行

OpenAI API+-, Anthropic API+-

「sk-」から始まるAPIキーをお客様でご用意ください。

OpenAI 参考URL) https://zenn.dev/umi_mori/books/chatbot-chatgpt/viewer/how_to_use_openai_api
Anthropic 参考URL) https://zenn.dev/en2enzo2/articles/77818ab03d9da2#claude3%E5%A7%8B%E3%82%81%E6%96%B9

Smart at (旧Azure) API丰一

トライアル時は、弊社営業よりご連絡いたします。

有償版ご契約時は、サポートよりお送りするメールでご連絡いたします。



- 利用する環境のタブを選択します。
- 利用環境に応じたAPIキーを入力します。

 ※APIキーについては上記枠線内をご確認ください。
- 3 当月の生成回数、添付ファイル利用回数を表示します。
 - 現在設定しているアプリのAPIトークンを入力します。
 ※詳細はプロンプト設定 高度な設定 Webhook 設定①をご覧ください。

ログ機能

※トライアル、有償版機能

生成実行時の実行ログを指定したアプリに残すことができます。 指定するログアプリはテンプレートファイルを用いて別途作成してください。

参考) kintoneヘルプ (https://jp.cybozu.help/k/ja/) kintone ヘルプ > ユーザーヘルプ > アプリの作成と削除 > ファイルを読み込んでアプリを作成する >テンプレートファイルからアプリを作成する



- ① ログ機能を利用する場合はチェックします。
- ② ログアプリのアプリIDを入力します。※「https://[サブドメイン].cybozu.com/k/」に 続いて表示されている末尾の数字がアプリIDです。
- 3 ログアプリのAPIトークンを入力します。※閲覧・追加・編集権限のあるAPIトークンを入力してください。

参考) kintoneヘルプ(<u>https://jp.cybozu.help/k/ja/</u>) kintone ヘルプ > ユーザーヘルプ > アプリの設定 > APIトークンを生成する

バッチ実行ログ機能

一覧連続実行時の実行ログを指定したアプリに残すことができます。 指定するバッチ実行ログアプリはテンプレートファイルを用いて別途作成してください。

参考)kintoneへルプ(https://jp.cybozu.help/k/ja/)
kintone ヘルプ > ユーザーヘルプ > アプリの作成と削除 > ファイルを読み込んでアプリを作成する >テンプレートファイルからアプリを作成する



- バッチ実行ログ機能を利用する場合はチェックします。
- ② 実行条件の不一意をエラーとして出力する場合はチェックします。

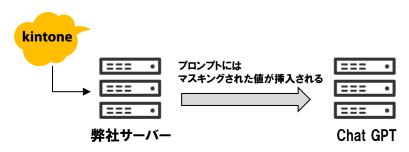
- ③ バッチ実行ログアプリのアプリIDを入力します。
 - ※「https://[サブドメイン].cybozu.com/k/」に 続いて表示されている末尾の数字がアプリIDです。
 - バッチ実行ログアプリのAPIトークンを入力 します。
 - ※閲覧・追加・編集権限のあるAPIトークンを入力してください。

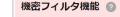
参考) kintoneヘルプ(<u>https://jp.cybozu.help/k/ja/</u>) kintone ヘルプ > ユーザーヘルプ > アプリの設定 > APIトークンを生成する

機密フィルタ機能

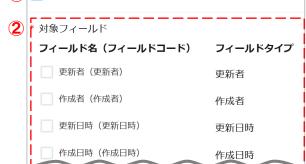
※トライアル、有償版機能

設定で指定したフィールドの値をマスキングすることができます。





(1) ☑ 機密フィルタを利用する ※チェックした場合のみ下記設定が表示されます



- 機密フィルタ機能を利用する場合はチェックします。
- 2 機密フィルタの対象とするフィールドを設定します。※添付ファイルのフィールドも指定することが可能ですが、機密
 - ※添付ファイルのフィールドも指定することが可能ですが、機密フィルタを利用することができません。ChatGPTへ送らないようにする場合は、プロンプトに添付ファイルを添付しないよう設定してください。

検索拡張生成機能(RAG)

アプリに登録されたレコード情報を元に生成を実行することができます。



- 1 ボタンで3つまで設定することが可能です。
- ② 参照するアプリのアプリIDを入力します。
 - ※「https://[サブドメイン].cybozu.com/k/」に 続いて表示されている末尾の数字がアプリIDです。
- ③ 上記アプリのAPIトークンを入力します。 ※閲覧権限のあるAPIトークンを入力してください。

参考) kintoneヘルプ(https://jp.cybozu.help/k/ja/) kintone ヘルプ > ユーザーヘルプ > アプリの設定 > APIトークンを生成する

※アプリから取得できるレコード件数には制限があります。

制限を超えたレコード情報は取得されません。複数のアプリを設定した場合は、合計のレコード件数です。

無償版 : 20件 ライト版(旧GPT3) : 200件 スタンダード版(旧GPT4) : 2,000件 プレミアム版 : 2,000件

プロンプト設定(レコードを更新)1



- 生成結果を更新先を指定することができます。 自アプリヘレコード更新するか、指定したアプリヘレコード追加するか選択します。
- ② 新しい設定を追加することができます。
- ③ 設定を有効にする場合はチェックします。
- 4 任意の設定名を入力します。
- ⑤ 結果を保存するフィールドを選択します。 利用可能なフィールドの種類は、スライド 「結果保存先で選択できるフィールド」に記載しています。

- 6 生成モデルを選択します。モデルによって利用できる添付ファイルやWeb検索を利用することができます。
- ⑦ 実行条件を指定することができます。
- 8 「+」で実行条件のフィールドや値を設定することができます。

プロンプト設定(レコードを更新)2



- 9 プロンプトを入力します。
 - ① のドロップダウンリストからフィールドの値を挿入することができます。 (例) %%フィールドコード%%
- 切 プロンプトをプレビュー表示します。最新のレコードを参照し、プロンプトをプレビュー表示することができます。

プロンプトへ項目を挿入する。

ドロップダウンリストから項目を選択し、「選択した項目を挿入」ボタンを押下することで、プロンプトへ項目を追加できます。 ドロップダウンリストの先頭の「項目名も同時に挿入する」にチェックすると、項目名も含め、挿入することができます。 「全ての項目を挿入」ボタンで全ての項目を挿入することもできます。

- ※挿入可能な項目の種類は、スライド「プロンプトに挿入できる 項目」に記載しています。
- ※検索拡張生成機能(RAG)を設定している場合、参照するアプリ の一覧を選択することができます。
- ※下記のシステム変数を挿入することができます(JST表示)。 実行した日時、実行した時刻、実行した曜日、実行した日。
- ※「長文生成モードを有効にする」をチェックしている場合、 「繰り返し回数」と「総繰り返し回数」を挿入することが できます。
- ② 添付ファイルを読込みする場合はチェックします。 添付ファイルのフィールドを指定します。対象のフィールドに複数のファイルが添付されている場合も対象となります。
 - ※ 添付ファイルの読込み可能なモデルを選択時のみチェックできます。

プロンプト設定 高度な設定(レコードを更新) 1

高度な設定ではWebhook設定や生成タイミング、生成ボタンのカスタマイズなどが可能です。



- 1つ上のプロンプトに続けて生成を行う場合はチェックします。
- ② kintoneのWebhookを利用して生成を行う場合はチェックします。
 - ※詳細は次ページ以降のWebhookの設定をご覧ください。
- ③ 生成時の確認ダイアログの有無を選択します。 Webhook利用時は「生成ボタン押下時」のみ確認ダイアログを表示します。
- ④ 生成タイミングを設定します。

Webhookを利用しない場合は、必須設定になります。生成ボタンの表示位置や、ボタン名称を設定することができます。

レコード追加・編集中に生成を行うことができます。ただし、 添付ファイルは含まれません。

一覧連続実行ボタンは一覧画面から複数レコードを絞り込み、 1レコード毎に生成を行います。

エージェント実行は、実行対象の一覧を選択し、生成を実行する 日時を指定することができます。詳細は、次ページ以降の エージェント実行を参照して下さい。

レコード追加は、レコード追加を行った時に生成を行います。

レコード編集は、レコード編集を行った時に生成を行います。

プロンプト設定 高度な設定(レコードを更新) 2

高度な設定ではWebhook設定や生成タイミング、生成ボタンのカスタマイズなどが可能です。



- 5 Web情報から最新の情報を含めて生成します。 Web検索可能な生成モデルを指定してください。
- 6 URLから情報を取得し、生成を行う場合はチェック します。

テキスト形式かHTML形式かを選択することができます。

- ※HTML形式を選択するとURLから取得する情報量が多くなり、 トークン数が上限を超えてしまう場合があります。トークン数の多い モデルを選択する、または情報量が少ないURLを指定して下さい。
- プ 生成結果をHTML/マークダウン表示する場合にチェックします。

HTML表示するスペース(要素ID)を選択します。プロンプトでHTMLのタグ付きで出力するように指示することで、「結果保存先」に原文が表示され、選択したスペースにHTMLで表示されます。

8 長文生成モードを行う場合はチェックします。 長文などで何回かに分けて繰り返し生成する場合に、繰り返し回数を 設定します。

プロンプト設定 高度な設定 Webhook 設定① (レコードを更新)

本設定を有効にすると、Webhookを利用して生成を実行することができます。

※併せてkintoneのWebhook設定を行ってください。

Webhook設定	* 生成タイミング	
✓ Webhookを有効にする	□ レコード追加時 □ レコード編集時	Webhook利用時の生成タイミングを設定します。

利用環境設定	
アプリAPIトークン ②	
APIトークン	
※現在設定しているアプリのレコード閲覧権限とレコード編集権	軍限が付与されているAPIトークンを入力してください。

利用環境設定の「アプリAPIトークン」に 現在設定しているアプリのAPIトークンを入力します。 ※編集権限のあるAPIトークンを入力してください。

参考) kintoneヘルプ (https://jp.cybozu.help/k/ja/) kintone ヘルプ > ユーザーヘルプ > アプリの設定 > APIトークンを生成する

※kintone Webhookの仕様上、以下の場合には生成を実行することができません。

- ・Excel/CSVファイルを読み込んでレコードを操作する
- ・複数のレコードを一括削除する
- ・複数のレコードを一括操作するREST APIを使用してレコードを操作する
- ・1分間に61回以上レコードを操作する(61回目以降の操作は生成が実行されません)

プロンプト設定 高度な設定 Webhook 設定② (レコードを更新)

kintoneのWebhook設定例

アプリの設定画面



Webhook URL:

https://ai-web-api.smartat.jp/api/webhook

通知を送信する条件:

- ・レコードの追加
- ・レコードの編集

有効化:

「このWebhookを有効にする」をチェックする



プロンプト設定(レコードを追加)

生成結果を指定したアプリヘレコード追加する場合に設定します。



- 1 「新しい設定を追加」で設定を行います。
- ② 設定を有効にする場合はチェックします。
- ③ 任意の設定名を入力します。
- 4 生成結果のレコードを追加するアプリを指定します。 アプリID、アプリAPIトークン
- ⑤ 生成結果を保存するフィールドを選択します。 利用可能なフィールドの種類は、 スライド「結果保存先で選択できるフィールド」に記載しています。
- ⑥ 生成モデルを選択します。 モデルによって利用できる添付ファイルやWeb検索を利用することが できます。

プロンプト設定(レコードを追加)

生成結果を指定したアプリヘレコード追加する場合に設定します。



- 7 プロンプトを入力します。
 - ⑨のドロップダウンリストからフィールドの値を挿入することができます。(例)%%フィールドコード%%
- 8 プロンプトをプレビュー表示します。最新のレコードを参照し、プロンプトをプレビュー表示することができます。
- 9 プロンプトへ項目を挿入する。

ドロップダウンリストから項目を選択し、「選択した項目を挿入」 ボタンを押下することで、プロンプトへ項目を追加できます。 ドロップダウンリストの先頭の「項目名も同時に挿入する」に チェックすると、項目名も含め、挿入することができます。 「全ての項目を挿入」ボタンで全ての項目を挿入することもできます。

- ※挿入可能な項目の種類は、スライド「プロンプトに挿入できる 項目」に記載しています。
- ※下記のシステム変数を挿入することができます(JST表示)。 実行した日時、実行した時刻、実行した曜日、実行した日。
- ※「長文生成モードを有効にする」をチェックしている場合、 「繰り返し回数」と「総繰り返し回数」を挿入することが できます。

プロンプト設定 高度な設定(レコードを追加)

高度な設定では生成タイミング、生成ボタンのカスタマイズなどが可能です。



- 生成時の確認ダイアログの有無を選択します。
- 2 生成タイミングを設定します。 レコードを追加では、「一覧集約実行ボタン」のみ指定が可能です。 生成ボタンの名称をカスタマイズできます。 指定した一覧の情報を集約し、生成するボタンになります。 エージェント実行は、生成を実行する日時を指定することができます。 詳細は、次ページ以降のエージェント実行を参照して下さい。
- ③ Web情報から最新の情報を含めて生成します。
 ※Web検索可能な生成モデルを指定してください。
- ④ URLから情報を取得し、生成を行う場合はチェックします。 テキスト形式かHTML形式かを選択することができます。
 - ※HTML形式を選択するとURLから取得する情報量が多くなり、 トークン数が上限を超えてしまう場合があります。トークン数の多い モデルを選択する、または情報量が少ないURLを指定して下さい。
- ⑤ 長文生成モードを行う場合はチェックします。 長文などで何回かに分けて繰り返し生成する場合に、繰り返し回数を設定 します。

プロンプト設定 高度な設定 エージェント実行

エージェント実行にチェックを入れ、「実行日時設定」ボタンにより、生成を実行する日時を指定することができます。毎月、毎週、毎日の指定時間で生成を行います。



実行日時を設定します。

- ① 「実行周期を選択」を選択します。 実行周期を毎月、毎週、毎日から選択します。
- ② 「新しい設定を追加する」を押下します。
- ③ 実行日時を設定します。 毎月の場合は、日付と時間を設定します。月末を指定することも可能です。 毎週の場合は、曜日と時間を設定します。 毎日の場合は、時間を設定します。 複数の実行日時を設定することが可能です。
- ④ 設定済み実行日時一覧を確認することができます。 同一サブドメインで設定されている実行日時の一覧が表示されます。アプリ が削除されている場合などで、実行できない設定は、削除アイコンが表示され、削除することができます。

プロンプト設定 高度な設定 生成モデルパラメーター

パラメータ値の詳細を設定可能です。

	生成モデルパラメーター	❷ ※通常の利用では設定を変更する必要はありません。
1	最大応答(Maximum length)	-1
2	温度(Temperature)	-1
	•	-1
3	上位P(Top P)	-1

- モデル応答あたりのトークン数に制限を設定します。APIは、プロンプト(システム メッセージ、例、メッセージ履歴、ユーザー クエリを含む)とモデルの応答の間で共有される最大のMaxTokenPlaceholderDoNotTranslate個のトークンをサポートします。1つのトークンは、一般的な英語テキストの約4文字です。
- ② ランダム性を制御します。温度を下げることは、 モデルがより反復的および決定論的な応答を生成 することを意味します。温度を上げると、予期し ない応答や創造的な応答が増えます。温度または 上位Pの両方ではなくどちらかを調整してみてく ださい。
- ③ 温度と同様に、これはランダム性を制御しますが、別の方法を使用します。上位Pを下げると、モデルのトークンの選択がより可能性が高いトークンに絞り込まれます。上位Pを上げると、確率が高いトークンと低いトークンの両方からモデルが選択できるようになります。温度または上位Pの両方ではなくどちらかを調整してみてください。

結果保存先で選択できるフィールド

フィールドタイプ

備考

文字列(1行) 文字列(複数行) リッチエディタ 数値 ※1 ラジオボタン ※1 ドロップダウン ※1 日付 ※1 時刻 ※1 日時 ※1 リンク ※1

※1 結果保存先ドロップダウン上部にある「文字列フィールド以外も表示する」にチェックした場合のみ表示されます。

実行条件で選択できるフィールド(レコードを更新)

フィールドタイプ

備考

レコード番号 文字列(1行) 文字列(複数行) リッチエディタ 数値 計算 リンク ステータス チェックボックス ラジオボタン 複数選択 ドロップダウン 作成日時 更新日時 日時 日付

プロンプトに挿入できる項目 (レコードを更新)

フィールドタイプ 備考

作成成 中成 で成 で成 で で で で で で で で で で で で で	cybozu.comに登録されている表示名がプロンプトに挿入されます。 cybozu.comに登録されている表示名がプロンプトに挿入されます。 プロセス管理が有効の場合のみ利用可能です。 プロセス管理が有効の場合のみ利用可能です。 プロセス管理が有効の場合のみ利用可能です。
チェックボックス	複数の値が選択されている場合は、カンマ区切りでプロンプトに挿入されます。
複数選択	例:「選択肢A、選択肢B、選択肢C」
ユーザー選択	選択肢にはcybozu.comに登録されている表示名、組織名、グループ名もしくはファイル名が入ります。
組織選択	複数の値が選択されている場合は、カンマ区切りでプロンプトに挿入されます。
グループ選択	例:「選択肢A」選択肢B」。選択肢C」
添付ファイル	ファイル名のみの挿入です。ファイルの内容については、利用することはできません。
テーブル	複数のフィールドが設定されている場合は、カンマ区切りでプロンプトに挿入されます。
実行した日時	表示形式: "yyyy-MM-ddTHH:mm:ss" "+09:00"
実行した時刻	表示形式: "HH:mm"
実行した曜日	表示形式: "dddd"(日本語の曜日)
実行した日	表示形式: "yyyy-MM-dd"
繰り返し回数	長文生成モードを有効にした場合に挿入できます。
総繰り返し回数	長文生成モードを有効にした場合に挿入できます。

添付ファイルで利用できるファイルの種類について

利用できない添付ファイルが指定されている場合は、エラーになります。

■OpenAIで対応している拡張子

画像: gif、jpeg、jpg、png、webp

文章:c、cpp、cs、css、doc、docx、go、html、java、js、json、md、pdf、php、pptx、py、

rb、sh、tex、ts、txt

■Anthropicで対応している拡張子

画像: gif、jpeg、jpg、png、webp

文章:pdf

■Geminiで対応している拡張子

画像: jpeg、jpg、png、webp、heic、heif

動画:mp4、mpg、mpeg、mov、avi、flv、webm、wmv、3gpp、3gp

音声:wav、mp3、mpeg、aiff、aif、aifc、afc、aac、ogg、flac

文章:pdf、js、py、txt、html、htm、css、md、mdown、markdn、markdown、csv、xml、rtf

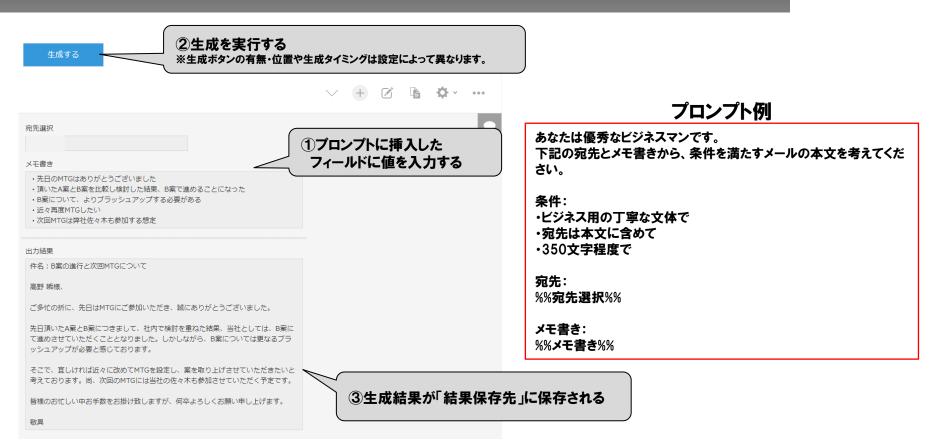
- ※生成モデルによって、利用できる種類(画像、動作、音声、文章)が異なります。
- ※OpenAIモデルでは、画像と書類は同時に利用(生成)することができません。また、文章のエンコードが「Shift-JIS」の場合、エラーになります。

設定情報



- ①設定書出ボタン 入力した情報をjsonファイルとしてダウンロードします。
- ②設定読込ボタン①でダウンロードしたファイルを読み込ませることで、入力した情報を復元します。

生成を実行する



生成回数が契約の上限を超えた場合

ご契約されたプランの生成回数の上限に達した場合はエラーが表示されます。 サポートにお問い合わせください。



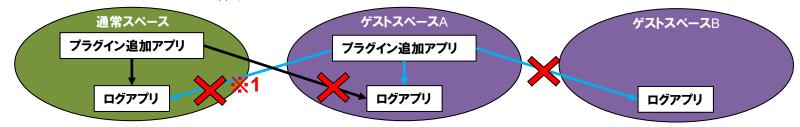
期限切れについて

トライアル期限や契約期日を超過してご利用の場合、 アプリの一覧画面で下記ダイアログが表示されアプリを利用することができません。 その場合、アプリからプラグインを削除するか、ご契約の更新をお願いいたします。



注意事項

• ゲストスペースに対応しています。ログ機能・バッチ実行ログ機能利用時は、プラグイン追加アプリが 通常スペースにある場合は通常スペース、プラグイン追加アプリがゲストスペースにある場合は同じゲ ストスペースに、ログアプリを配置してください。



※1 バッチ実行口グは機能利用不可、口グ機能は利用可

- モバイル端末からブラウザ操作、kintoneのモバイルアプリに対応しています。
- セキュアアクセスに対応しています。プラグインを設定する際は、IPアドレスが許可された環境(kintoneのサブドメインに「.S」が含まれない環境)から設定して下さい。
- SAML認証・Basic認証には現時点では対応していません。
- LGWAN環境には対応していません。
- kintoneにIPアドレス制限を設定している場合、以下の弊社サーバーのIPアドレスを許可して下さい。 IPアドレス: 74.226.163.53
- 「生成中にAPIエラーが発生しました。(指定されたモデルの最大トークン数を超えています。)」と表示された場合、プロンプトの文字数や結果の文字数が小さくなるよう調整してください。
- HTML表示を指定している場合、iframeタグは表示されません。

注意事項

- 「moconavi」のセキュアブラウザ「mocochro(モコクロ)」に対応しています。
- 実行条件によりすべての生成がスキップされた(1つも生成されなかった)場合、エラーメッセージが表示されます。